

ゆかたでぼんおどり

佐藤 初娃

毎年ゆかたをきて、ぼんおどりに行くことを楽しみにしています。だけど、去年きていたゆかたは、小さくて、きれなくなっていました。そこで、わたしは妹にあげてしまいました。わたしは、家にもう一つあるゆかたをきてみましたが、十五センチぐらい長くてきれないから、妹に

「そめのゆかたがきれないから、前にたまちゃんにあげたゆかたを、お姉ちゃんがまたきてもいい」と

と聞きました。すると妹は、「エンエン」となきました。そのため、わたしはまよいました。小さいゆかたをきて、たまちゃんにがまんしてもらおうか、大きいゆかたをそのままきて、ぼんおどりにいくか。そして考えていると、お母さんが

「大きいゆかたをちようせいしてあげるから小さいのをたまちゃんにきさせてあげてね。」と言ってくれました。わたしは、この時うれしかったけど、お母さんはおしごとがいっぱいあるのにやってくれると言うから、お母さんはいへんだなと思いました。わたしは、

「お母さんは、おしごとがあるからたいへんでしょ」と

と言ったところ、お母さんは、

「そめのことならなんでもやってあげるよ」と

言ってくれました。

お母さんのやさしさをかじりました。わたしの家は、お父さん、お母さん、妹、弟、わたしの五人家族であります。弟はまだ3才で、今年からようち園に通っています。弟は、まだあまえばうで、何かであそんでいても、すぐにお母さんがきになり、

「ママはどこにいるの」と聞いてきます。ママが近くにいないとわかると、きゆうになきだしてしまいます。そのため、お母さんはいつも弟といっしょにいます。わたしもお母さんのそばにいたいけど、弟はまだ小さいのですがまんしています。お母さんは、まだ小さい弟の相手をしながら、ごはんを作ったり、そうじをしたりして、いつもいそがしくしています。そんないそがしいお母さんが、わたしのゆかたを直してくれると言ってくれました。わたしは、ぶかぶかのゆかたでも、がまんしてきていこうと思っただけど、お母さんが直してくれると言ってくれたので、とてもうれしかったです。

わたしは、まだ自分のきもちをすなおに人につたえることができせん。でも、今なら言えます。お母さんいそがしいのに、わたしのためにやってくれてありがとう。わたしも、できるだけおてつだいでできるようにがんばります。